

- 問1 日本アルプスを構成する3つの山脈について、北から順に正しく並んでいる組み合わせを選びなさい。(2019年 和歌山公立入試 類似)
1. 飛騨山脈、木曾山脈、赤石山脈
 2. 赤石山脈、木曾山脈、飛騨山脈
 3. 木曾山脈、飛騨山脈、赤石山脈
 4. 飛騨山脈、赤石山脈、木曾山脈
- 問2 日本の中部地方の内陸部、特に周囲を高い山々に囲まれた盆地状の地域では、山地が壁となることで季節風の影響を受けにくく、年間の降水量が少なくなる傾向があります。このような地域において、不足しがちな農業用水を確保する目的で古くから作られてきた人工的な池を何と呼びますか。(2026年 愛媛公立入試 類似)
1. ため池
 2. 遊水池
 3. 砂防ダム
 4. 地下水路
- 問3 ある都市の計画において、現状を「自家用車中心の生活により施設が郊外に分散している状態」とし、これを「公共交通の沿線や駅周辺に医療・商業などの施設を集め、徒歩や電車での移動を容易にする状態」へ転換しようとしています。このような計画を進める背景や目的として最も適切な説明はどれですか。(2024年 東京都公立入試 類似)
1. 高齢者が運転免許を返納した後も、公共交通を利用して通院や買い物を続けられる環境を整えるため。
 2. 郊外の未開発地を積極的に住宅地として造成し、都市の面積をさらに拡大させて人口増加を図るため。
 3. 中心市街地の渋滞を緩和するため、主要な行政機関や商業施設をすべて郊外の幹線道路沿いに移転させるため。
 4. 自家用車の利用をさらに促進することで、二酸化炭素の排出量を削減し環境保護につなげるため。
- 問4 東海工業地域に属する静岡県では、自動車やオートバイなどの生産が非常に盛んです。県の製造品出荷額において、24パーセント以上の最も高い割合を占めている産業分類を選択肢から選びなさい。(2026年 三重公立入試 類似)
1. 輸送用機械器具製造業
 2. 電気機械器具製造業
 3. 化学工業
 4. 情報通信機械器具製造業
- 問5 北陸地方の気候的特色と伝統産業について述べた文として、正しいものはどれですか。(2015年 佐賀公立入試 類似)
1. 新潟県では、冬季の積雪により農業ができない期間の副業として、小千谷ちぢみなどの繊維産業が発達した。
 2. 石川県では、夏に乾燥する気候を利用して、輪島塗などの漆器を屋外で乾燥させる作業が伝統的に行われてきた。
 3. 北陸地方は一年中温暖で降水量が少ないため、古くから大規模な綿花の栽培が行われ、手織りの技術が発展した。
 4. 北陸地方の伝統産業は、主に海外から輸入した原料を冬の間に加工して、再び海外へ輸出する形態から始まった。
- 問6 長野県、岐阜県、富山県にまたがり、標高3000メートル級の険しい山々が連なる山脈について、通称「北アルプス」とも呼ばれる名称として正しいものはどれですか。(2026年 山形公立入試 類似)
1. 飛騨山脈
 2. 木曾山脈
 3. 赤石山脈
 4. 日高山脈
- 問7 中部地方を、太平洋に面した東海、内陸の中央高地、そして日本海側の北陸という3つの地域に区分したとき、北陸地方における気候と農業の特色について説明した文として、最も適切なものはどれか。(2021年 徳島公立入試 類似)
1. 冬の豊富な降雪が春の豊かな雪解け水となり、それを利用した大規模な稲作が行われている。
 2. 冬でも温暖な気候を活かして、キャベツなどの野菜の促成栽培が盛んに行われている。
 3. 年間を通じて降水量が少なく、気温の年較差が大きいため、ブドウや桃などの果樹栽培が中心である。
 4. 平地が少ないため、扇状地を利用して茶やミカンの栽培が大規模に行われている。
- 問8 日本で最も長い信濃川の下流域に広がり、その豊かな水と堆積した土砂によって形成された、日本有数の稲作地帯として知られる平野の名称を選びなさい。(2018年 和歌山公立入試 類似)
1. 越後平野
 2. 石狩平野
 3. 濃尾平野
 4. 筑紫平野
- 問9 新潟県や富山県といった北陸地方の県における、土地利用の統計的な特徴について述べた文として、正しいものはどれですか。耕地面積全体に占める「田」と「畑」の割合に着目して答えなさい。(2017年 千葉県公立入試 類似)
1. 耕地面積のうち、田の占める割合が80%を超える非常に高い水準にある
 2. 耕地面積のうち、田と畑がほぼ50%ずつで、混合農業が盛んである
 3. 都市化が進んでいるため、田の面積は耕地全体の30%以下に留まっている
 4. 果樹園などの畑地利用が中心であり、田の面積は10%未満である
- 問10 石川県の工業出荷額において、電子部品・デバイス工業や食料品製造業が一定の割合を占めている背景として、最も適切な説明はどれですか。(2024年 静岡県公立入試 類似)
1. 電子部品の製造に必要な清浄な水や空気が確保しやすく、伝統産業で培われた技術が機械工業に応用されたため
 2. 大規模な自動車工場が集積しており、その関連部品を供給する輸送用機械器具製造業が中心となっているため
 3. 太平洋ベルトの臨海部に位置し、海外から輸入した原油や鉄鉱石を加工する重化学工業が発達したため
 4. 広大な平野を活用した大規模農業が展開され、出荷額のほとんどを農産物の加工品が占めているため
- 問11 静岡県内の広い傾斜地や台地で見られる土地利用の歴史的・地理的な背景について述べた文として、最も適切なものを選択してください。(2023年 千葉県公立入試 類似)
1. 明治時代、土族などの手によって牧之原などの広大な台地が開墾され、輸出用としても期待された茶の栽培が始まった。
 2. 戦後の高度経済成長期に、山地を切り開いて大規模な段々畑を作り、輸出用のみかん栽培を専門的に始めた。
 3. 江戸時代から続く伝統的な新田開発により、水はけの悪い低湿地を改善して大規模な稲作地帯へと造り変えた。
 4. 中央高地の冷涼な気候を利用し、都市向けの生花を栽培するためのビニールハウスが台地一面に設置された。
- 問12 中部地方のある県の統計において、人口が約八十五万人と比較的少なく、農業産出額に占める果物の割合が野菜や米を大きく上回っている県があります。この県の農業の特色について説明したものとして正しいものはどれですか。(2016年 兵庫公立入試 類似)
1. 扇状地を利用してぶどうなどの生産が盛んであり、消費者に収穫体験を提供する観光農園も多く見られる。
 2. シラス台地が広がる地形を活かして、さつまいもの生産や畜産業が大規模に行われている。
 3. 日照時間が長い沿岸部の傾斜地を利用して、茶の栽培が盛んに行われ、全国的ブランドとなっている。
 4. 高冷地でのレタスやキャベツの栽培が中心で、保冷トラックを用いて大消費地へ出荷している。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 飛騨山脈、木曾山脈、赤石山脈	日本アルプスは北から順に、北アルプスと呼ばれる「飛騨山脈」、中央アルプスと呼ばれる「木曾山脈」、南アルプスと呼ばれる「赤石山脈」の3つから構成されています。これらは大規模な地殻変動によって形成された、日本で最も険しい山岳地帯です。
問2	答え 1 ため池	中部地方の中央高地は、高い山々に囲まれているために湿った季節風が遮られ、全国的に見ても雨や雪が少ない地域です。そのため、古くから雨水などを貯めておく「ため池」を築くことで、稲作などの農業に必要な水を安定して供給できるように工夫されてきました。
問3	答え 1 高齢者が運転免許を返納した後も、公共交通を利用して通院や買い物が続けられる環境を整えるため。	高齢化社会においては、車を運転できない住民の移動手段を確保することが重要な課題となります。駅やバス停周辺に機能を集中させることで、公共交通の利用者を増やして路線を維持しやすくするとともに、除雪やインフラ整備などの行政サービスを効率化するねらいがあります。
問4	答え 1 輸送用機械器具製造業	静岡県は愛知県などとともに東海工業地域を形成しており、特に浜松市周辺などを中心に自動車や二輪車（オートバイ）の生産拠点が集まっています。製造品出荷額の統計資料においても、輸送用機械が全体の4分の1近くを占める最大の基幹産業となっており、これに電気機械や化学工業が続く構成が特徴です。
問5	答え 1 新潟県では、冬季の積雪により農業ができない期間の副業として、小千谷ちぢみなどの繊維産業が発達した。	北陸地方の伝統産業は、冬の厳しい気候条件と密接に関係しています。新潟県の小千谷ちぢみは、雪の上で布をさらす「雪ざらし」という工程があるなど、雪国の環境を活かした産業でもあります。石川県の輪島塗も、冬に農作業ができない時期の内職として発展しました。夏の乾燥や原料の輸入は、北陸の伝統産業の主な成立背景とは一致しません。
問6	答え 1 飛騨山脈	中部地方の中央部には標高の高い山脈がそびえており、そのうち最も北側に位置する飛騨山脈は「北アルプス」と称されます。これに木曾山脈（中央アルプス）、赤石山脈（南アルプス）を合わせた3つの山脈が、日本の屋根とも呼ばれる日本アルプスを構成しています。
問7	答え 1 冬の豊富な降雪が春の豊かな雪解け水となり、それを利用した大規模な稲作が行われている。	北陸地方は、冬に北西から吹く湿った季節風の影響で世界的な多雪地帯となります。春に溶け出す大量の雪解け水は、稲作に必要な灌漑用水として古くから活用されてきました。このため、新潟県の越後平野などの広大な平野では、日本を代表する稲作地帯が形成されています。他の選択肢にある「促成栽培」は高知県や宮崎県、「果樹栽培」は中央高地（山梨県など）、「茶やミカン」は静岡県などの東海地方の特色です。
問8	答え 1 越後平野	信濃川が日本海に注ぐ河口付近には、広大な越後平野が広がっています。この平野はかつて地は低く水はけの悪い湿田が多かったのですが、干拓や土地改良、大河津分水路などの治水事業が進められた結果、現在では日本を代表する米の単作地帯となっています。
問9	答え 1 耕地面積のうち、田の占める割合が80%を超える非常に高い水準にある	北陸地方は日本を代表する米どころであり、特に新潟県などの統計を見ると、耕地面積の大部分を田が占めていることがわかります。具体的には、耕地全体のうち80%以上が田となっており、これは冬の積雪の影響で裏作（冬の間別の作物を育てること）が難しく、米の単作地帯として発展してきた歴史的・気候的な背景が影響しています。
問10	答え 1 電子部品の製造に必要な清浄な水や空気が確保しやすく、伝統産業で培われた技術が機械工業に応用されたため	石川県では、輪島塗や丸谷焼といった伝統工芸で培われた「ものづくり」の精神や技術が、精密機械や電子部品の分野に応用されてきました。電子部品の製造には高度な技術と清浄な環境（水・空気）が求められるため、北陸の豊かな自然環境が産業の発展を支えています。愛知県のような輸送用機械への過度な集中が見られない点が、統計上の大きな特徴です。
問11	答え 1 明治時代、土族などの手によって牧之原などの広大な台地が開墾され、輸出用としても期待された茶の栽培が始まった。	静岡県の茶の栽培は、明治維新によって職を失った土族や徳川幕臣、そして周辺の農民たちが牧之原台地などを開墾したことから本格化しました。当時、茶は生糸と並んで重要な輸出商品であり、水はけの良い台地の特性を活かした産業として定着しました。
問12	答え 1 扇状地を利用してぶどうなどの生産が盛んであり、消費者に収穫体験を提供する観光農園も多く見られる。	統計に示された人口規模や農業産出額の内訳から、この県は山梨県であると判断できます。山梨県はぶどうや桃の生産量が日本トップクラスであり、その多くは甲府盆地周辺の扇状地で栽培されています。また、東京などの大都市圏に近い立地を活かし、単に生産・出荷するだけでなく、消費者が直接訪れて果物狩りを楽しむ「観光農園」が数多く運営されていることも大きな特徴です。